

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309		
法人名	有限会社サンヨー		
事業所名	グループホーム貞山みよりの家 ユニット:海		
所在地	多賀城市大代3丁目7-72		
自己評価作成日	令和3年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を大切にし、利用者様が楽しく過ごせるように季節の行事を大切にし、利用者様の話に耳を傾け笑顔でサポート致しております。特に食事は、美味しく召し上がっていただけるように力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2004年に開所したホームは、多賀城市大代地区の少し高台にあり、東側には「貞山運河」が流れ、近くには自衛隊多賀城駐屯地、隣には大代駐在所があり、2階建て2ユニットで運営している。1階のユニットは「海」、2階のユニットは「空」と名称し、共用型のデイサービスも行っている。ホームの理念「安心と安全で思いやりのある穏やかな生活を支える」を掲げ、地域の人々やボランティアなどとの交流を大切に取り組んでいる。職員は思いやりと親切をモットーに、いつでも『目配り、気配り、心配り』をおこたらず、相手の話を聞き笑顔で支援できるよう努めている。コロナ禍で運営推進会議の代替えとして、地域との関係性が保たれるよう市や町内会長宅に情報誌「貞山みよりの家便り」を持参し、他のメンバーには電話で報告し、情報交換を行っている。運営推進会議には駐在所所長が参加しており、日常的にも連携が取れている。管理者は「認知症ケア専門士」の資格を持ち、職員のケアの仕方、接遇面にも気を配り、ケアの質の向上を目指している。特に食事は、旬の魚や野菜など食材を吟味し、四季を感じ美味しく食べてもらえるよう工夫している。玄関フロアには、雛人形や手作りの作品、写真、花などが飾られ、明るく温かい雰囲気作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム 貞山みよりの家 ）「ユニット名 海 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを職員全員で確認し住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続を支えるための柔軟な支援になるように意識し実践している	ホーム理念を掲示し、職員は「方針」と「スタッフの心得」を記載したカードを名札に入れ随時確認できるよう携帯している。朝夕の申し送りミーティング時や自分のケアが不安になった時など、理念に基づき振り返り、ケアに活かすよう取り組んでいる。思いやりの気持ちを持ち、常に利用者を支えていくことを意識して、ケアに繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、リサイクル活動や行事に参加している又毎月町内会の方々に参加して頂くカフェも開催し地域の方々がいつでも行き来できるようにしている ホーム便りも地域の方々に配布している	町内会に加入し、リサイクル活動などに参加している。ホームで毎月「おおしろカフェ」を開催していたが、コロナ禍のため中止している。「ホーム便り」を町内会に配布し、ホームの様子を報告している。利用者は、踊りやカラオケなどのボランティアの来訪を楽しみにしていたが、現在は受入れを中止している。隣の駐在所とも連携体制ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、事業所での実践内容を踏まえ様々な研修会合に関わりながら認知症の啓発に努めている カフェの開催の中でも認知症について勉強会をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、駐在所署長、ご家族様代表に出席して頂き開催している 事業所からの報告とともに参加メンバーからの質問、意見要望を受けその経過報告し合い一つ一つ積み上げていくようにしている	例年は、町内会長、民生委員、市職員、地域包括職員、第三者委員、駐在所署長、家族代表で会議を開催している。ホームの運営や利用者の状況、職員研修などの報告をしていたが、コロナ禍により昨年4月からは、市職員、町内会長には訪問で、他のメンバーには電話で状況を報告をしながら意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方に運営推進会議に出席して頂き、事業所の状況を把握して頂けるようにしている又 ホーム便りも届けている	管理者は、毎月の状況報告とホーム便りを市の窓口に届けている。介護福祉課、地域包括職員からは、介護保険改定や新型コロナウイルス感染症対策についての情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者や権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている、日々の申し送り時でその日のケアを振り返り自覚しない身体拘束が行われていないか等を点検している	3ヶ月ごとに「身体的拘束適正化検討委員会」を開催し研修を行っている。管理者は、職員の日々のケアや言葉遣いで気になった際には、随時その場で指摘し、ミーティング時に検討している。玄関施錠は防犯上、17時半から翌朝8時である。外出要求が強い利用者には、談話しながら気分転換を図り、隣の駐在所とも見守り連携が取れるよう声掛けしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する勉強会を実施し職員の共有認識を図り遵守に向けた取り組みを行っている	高齢者虐待防止法に関する勉強会を行い、職員は共通認識を持ちケアを行うよう努めている。新聞に虐待に関するヒヤリハット事例の記事が掲載された時には、職員に回覧し周知情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員への説明を行っている 対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時職員に対する説明、アドバイスをしながら利用者の支援に結びつけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応の可能な範囲について説明を行っている 利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、家族等と対応方針を相談している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望や意見を出してもらう機会として毎年12月にクリスマス会に合わせて家族会を開催し、出された意見は運営や日々のケアに活かしている	家族会があり、例年はクリスマス会の時に意見・要望を聞いていた。昨年のクリスマス会は、コロナ禍で家族の参加はなかった。家族が、衣類や薬を届けに来訪した時に、意見・要望を聞いている。毎月写真入りの「貞山みよりの家便り」を送付し、行事・食事の様子や新しい利用者紹介を報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで職員の意見、要望を聞くとともにミーティングテーマを決めて話し合っている 管理者は、職員の要望や意見を聞くように心がけている	ミーティングで出た職員の意見や要望は、管理者がまとめ、法人本部に報告している。物品購入の要望などが叶えられ、サービスの向上に繋がっている。職員の資格取得、シフト調整、研修費用などの要望について、管理者が調整している。	コロナ禍で職員が希望する研修や勉強会が実施できなかったもので、状況をみながら、様々な工夫のもと、実施できるように検討することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、経営者にたいして機会あるごとに現場の状況について詳しく報告を行っている 職員が落ち着いて働けるよう環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた内容の研修にし、職員が参加出来るように心掛けている 又外部での研修ミーティング、勉強会等で報告する機会を作っている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議に出席し連携を図っている 研修会に出席し質の向上に励んでいる	グループホーム協議会のブロック会議に出席していたが、現在はオンライン会議で、介護保険改定や新型コロナウイルス感染症対策についての情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、事業所としては、どのような対応が出来るか事前に話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人状況を見極め可能な限り柔軟な対応行い又改善に向けた支援と信頼関係を築きながらサービスに繋げるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たずお互いが協働しながら和やかな生活出来るよう場面づくり 声かけをしている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなっている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室に行き続けている利用者があり 一人一人の生活習慣を尊重している	昔から通っていた馴染みの美容院に通っている利用者もいる。以前は、家族と墓参りに行ったり、外食を楽しんだりしていたが、コロナ禍で、面会も自粛している。関係が途切れないよう、年賀状や電話で家族と連絡を取り合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について情報共有できるようにしている 心身の状態や気分、感情で日々変化することもあるので注意深く見守るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にもお手紙や電話で状況伺ったり継続的な付き合いが出来るよう心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握を努めている。言葉や表情などからその真意を推測したり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得られるようにしている	日々、利用者の意向も変化するので、その日の言葉、表情などから、どんなことを要望しているのか、声掛けして確認している。思いや意向の把握が困難な人には、居室担当職員がじっくり話を聞いたり、家族から情報を得て支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、自宅に訪問したりご本人や家族関係者などから聴き取るようにしている。利用後も折に触れどんな生活をしていたのか聴いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている	アセスメントは、課題検討用紙を利用し、全職員で検討している。モニタリングは3ヶ月ごとに行い状態が変化した時は、都度話し合い、家族の意見も入れ、介護計画の見直しをしている。介護計画書の同意は、家族の来訪時や来訪できない家族には電話で連絡し、郵送して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能を生かして自宅で暮らす認知症対応のディサービスを提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けていけるよう運営推進会議に警察、町内会長民生委員の方に出席して頂き交流連携を図っている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診となっている又通院は、ご本人やご家族の希望に応じて対応している 家族同行の受診となっているが不可能な時には職員が代行するようしており利用契約の時にその旨を説明し同意得ている	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診している。訪問医がかかりつけ医の場合、月2回訪問診療を受けている。通院は、家族の付添いが基本であるが、困難な時は職員が同行している。家族付添いの受診時には、利用者の状態などのメモを渡し、口頭でも説明をしている。看護師が非常勤として週2回勤務し、健康管理を行っている。月1回、訪問歯科医が来訪し、治療や口腔ケアを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている 看護職員が居ない時間は、記録を基に連携を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、職員も見舞うようにしている又家族とも情報交換しながら回復状況等を伺い速やかな退院支援に結びつけている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りに関するホーム方針を説明し、双方で確認を得、医療機関や訪問診療の説明をしている 重度化や終末期に関して家族の意向に応じられるように対応している	ホームで看取りを希望したいという利用者・家族には、入居時に「看取りに関する指針」を説明し、同意を得ている。医師が終末期と判断した際には、管理者や看護職員が家族に説明し、介護計画を作成し同意を得て支援を行っている。管理者は、日頃から看取り対応の研修を行い、職員が不安にならないように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の容態の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備している又外部、内部の研修もしている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、利用者とともに避難訓練を行っている 地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼び掛けている	災害対策マニュアルを作成している。例年は年6回、避難訓練、夜間想定訓練を実施していた。昨年はコロナ禍ではあったが、消防署立ち合いも含めて3回実施している。設備点検は、年2回業者が行っている。備蓄は10日分用意し、新たにローリングストック法に基づきリストを作成して定期的に入替えて管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり、誘導の声がけをして、目立たずさりげない言葉がけや対応に配慮し、利用者の誇りやプライバシーをそこねない対応の徹底を図っている	利用者一人ひとりを尊重し、尊厳を損ねないよう努めプライバシー保護に配慮してケアに取り組んでいる。排泄介助時などは耳元で声掛けし、さりげなくトイレに誘導している。呼び名は基本「さん」付けで呼んでいるが、本人の希望で愛称で呼ぶ人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛け、意志表示が困難な方には表情を読み取ったり些細なことでも本人が決める場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れを持っているが、職員の側の都合を優先するのではなく、一人一人のペースを大切に出来るだけ個性のある支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援し、又化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる 本人の馴染の美容院で希望に合わせたカット、毛染めをしてもらえるように連携をとっている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、利用者と相談しながら決めている 毎月行事、誕生会は、利用者の希望を聞き手作りしている 片付けも利用者と一緒し食事を大切にしている	メニューには、利用者から好みの物を聞いたり、季節の食材を取り入れて職員が作成し調理している。食事を作る過程も大切に、音や香りを五感で楽しめるようにしている。市の栄養士から塩分量などの助言を受けている。季節の行事に合わせ、正月には、あんこ餅や雑煮を提供したり、クリスマスにはピザなど洋風のメニューを提供して利用者から好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報共有している 食事内容を写真に残し、家族に便りで報告している 残食、摂取量を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員一人ひとりが把握し毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助をおこなったりしている 就寝前は、義歯の洗浄を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することによって、トイレで排泄できるように支援している	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握している。できるだけトイレで排泄が行えるよう声がけし、誘導している。夜間は、おむつやパッドの大きさを変えたり、居室でポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりの状態に合わせて支援している。便秘対策としては、歩け歩け運動や軽体操を行い、食事には乳製品を摂り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質が多い食材や乳製品を採り入れている レクリエーションや軽体操の運動を働きかけることで自然排便が出来るよう取り組んでいる		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	大浴場は、月、水、金に実施し、個浴は、入浴の希望があれば午前9時から午後7時の間で入浴支援をしている 体調により足浴、マッサージもおこなっている	大浴場には、月、水、金に入浴し、個浴は利用者の希望があれば午前9時から午後7時までの間に入浴支援をしている。湯はかけ流しである。大浴場には、何人かで温泉気分を味わいながら、マイシャンプーなどを使用し、楽しく入浴している。入浴拒否のある場合には、声掛けや時間を変えて入浴ができるよう誘導している。入浴できない状況の時は、清拭等で清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている 又一人ひとり体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握出来るようにしている 服薬時は、飲み込むまで確認し、飲み忘れや誤薬防止の為に投薬チェック表を作成している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願い出来るような仕事を頼み感謝の言葉をつたえるようにしている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や希望に応じて外出し季節を肌で感じてもらい、心身の活性につなげるようにしている 又外食、お弁当を持って戸外に出かけている	コロナ禍ではあったが、馴染みの温泉施設と話し合い感染対策を徹底し、松島の日帰り温泉に行くことができた。利用者は食事や土産を買って、楽しんだ。他にも、感染予防を徹底し、農業園芸センターにお弁当を持って出掛けたり、春には定義に油揚げやおにぎりを食べに行ったり、加瀬沼に花見にドライブに出掛けるなど楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出にお見上げ等自分の財布から支払ってもらい 自分の財布からお金を出すことで社会性の維持に繋げている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状と暑中見舞いを出すための支援を行い、利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く暮らして頂けるよう清掃は、徹底している フロアの飾りつけなどは、利用者と一緒に考えて、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらうような工夫をしている	大きなテーブルやゆったりと寛げるソファが設けられ、日中はほとんどの利用者が日当たりが良く明るいフロアで過ごしている。手作りの日めくりカレンダーや見やすい時計、季節に合わせおひな様や今年の干支の折り紙が飾られ、温かい雰囲気を作り出している。温・湿度は職員が管理し、冬場は加湿器も使用している。換気は、1時間置きに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ホールや階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等を置き、絵画や花などで装飾し 居心地の良い空間を作っています		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使いなれた日用品等用意し 写真、テレビ、仏壇なども持ち込まれ安心して生活が出来るように配慮している	居室の入口のドアには、それぞれに花の写真が貼られ、室内にはエアコン、洗面台、クローゼットが設置されている。利用者は馴染みの家具、写真、テレビ、仏壇など持ち込み、それぞれの思いを大切に自分の部屋になっている。掃除は、早番の職員が行い、衣替えなどは居室担当者の職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、手すり 浴室 トイレ 廊下などの居住環境が適しているか見直し 安全確保と自立への配慮をしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309		
法人名	有限会社サンヨー		
事業所名	グループホーム貞山みよりの家 ユニット:空		
所在地	多賀城市大代3丁目7-72		
自己評価作成日	令和3年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を大切にし、利用者様が楽しく過ごせるように季節の行事を大切にし、利用者様の話しに耳を傾け笑顔でサポート致します、特に食事は、美味しく召し上がっていただけるように力をいれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2004年に開所したホームは、多賀城市大代地区の少し高台にあり、東側には「貞山運河」が流れ、近くには自衛隊多賀城駐屯地、隣には大代駐在所があり、2階建て2ユニットで運営している。1階のユニットは「海」、2階のユニットは「空」と名称し、共用型のデイサービスも行っている。ホームの理念「安心と安全で思いやりのある穏やかな生活を支える」を掲げ、地域の人々やボランティアなどとの交流を大切に取り組んでいる。職員は思いやりと親切をモットーに、いつでも『目配り、気配り、心配り』をおこたらず、相手の話を聞き笑顔で支援できるよう努めている。コロナ禍で運営推進会議の代替えとして、地域との関係性が保たれるよう市や町内会長宅に情報誌「貞山みよりの家便り」を持参し、他のメンバーには電話で報告し、情報交換を行っている。運営推進会議には駐在所所長が参加しており、日常的にも連携が取れている。管理者は「認知症ケア専門士」の資格を持ち、職員のケアの仕方、接遇面にも気を配り、ケアの質の向上を目指している。特に食事は、旬の魚や野菜など食材を吟味し、四季を感じ美味しく食べてもらえるよう工夫している。玄関フロアには、雛人形や手作りの作品、写真、花などが飾られ、明るく温かい雰囲気作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム 貞山みよりの家 ）「ユニット名 空 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを職員全員で確認し住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続を支えるための柔軟な支援になるように意識し実践している	ホーム理念を掲示し、職員は「方針」と「スタッフの心得」を記載したカードを名札に入れ随時確認できるよう携帯している。朝夕の申し送りミーティング時や自分のケアが不安になった時など、理念に基づき振り返り、ケアに活かすよう取り組んでいる。思いやりの気持ちを持ち、常に利用者を支えていくことを意識して、ケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、リサイクル活動や行事に参加している又毎月町内会の方々に参加して頂くカフェも開催し地域の方々がいつでも行き来できるようにしている ホーム便りも地域の方々に配布している	町内会に加入し、リサイクル活動などに参加している。ホームで毎月「おおしろカフェ」を開催していたが、コロナ禍のため中止している。「ホーム便り」を町内会に配布し、ホームの様子を報告している。利用者は、踊りやカラオケなどのボランティアの来訪を楽しみにしていたが、現在は受入れを中止している。隣の駐在所とも連携体制ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、事業所での実践内容を踏まえ様々な研修会合に関わりながら認知症の啓発に努めている カフェの開催の中でも認知症について勉強会をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、駐在所署長、ご家族様代表に出席して頂き開催している 事業所からの報告とともに参加メンバーからの質問、意見要望を受けその経過報告し合い一つ一つ積み上げていくようにしている	例年は、町内会長、民生委員、市職員、地域包括職員、第三者委員、駐在所署長、家族代表で会議を開催している。ホームの運営や利用者の状況、職員研修などの報告をしていたが、コロナ禍により昨年4月からは、市職員、町内会長には訪問で、他のメンバーには電話で状況を報告をしながら意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方に運営推進会議に出席して頂き、事業所の状況を把握して頂けるようにしている又 ホーム便りも届けている	管理者は、毎月の状況報告とホーム便りを市の窓口へ届けている。介護福祉課、地域包括職員からは、介護保険改定や新型コロナウイルス感染症対策についての情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者や権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている、日々の申し送り時でその日のケアを振り返り自覚しない身体拘束が行われていないか等を点検している	3ヶ月ごとに「身体的拘束適正化検討委員会」を開催し研修を行っている。管理者は、職員の日々のケアや言葉遣いで気になった際には、随時その場で指摘し、ミーティング時に検討している。玄関施錠は防犯上、17時半から翌朝8時である。外出要求が強い利用者には、談話しながら気分転換を図り、隣の駐在所とも見守り連携が取れるよう声掛けしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する勉強会を実施 職員の共有認識を図り遵守に向けた取り組みを行っている	高齢者虐待防止法に関する勉強会を行い、職員は共通認識を持ちケアを行うよう努めている。新聞に虐待に関するヒヤリハット事例の記事が掲載された時には、職員に回覧し周知情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員への説明を行っている 対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時職員に対する説明、アドバイスをしながら利用者の支援に結びつけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応の可能な範囲について説明を行っている 利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、家族等と対応方針を相談している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望や意見を出してもらう機会として毎年12月にクリスマス会に合わせて家族会を開催し、出された意見は運営や日々のケアに活かしている	家族会があり、例年はクリスマス会の時に意見・要望を聞いていた。昨年のクリスマス会は、コロナ禍で家族の参加はなかった。家族が、衣類や薬を届けに来訪した時に、意見・要望を聞いている。毎月写真入りの「貞山みよりの家便り」を送付し、行事・食事の様子や新しい利用者紹介を報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで職員の意見、要望を聞くとともにミーティングテーマを決めて話し合っている 管理者は、職員の要望や意見を聞くように心がけている	ミーティングで出た職員の意見や要望は、管理者がまとめ、法人本部に報告している。物品購入の要望などが叶えられ、サービスの向上に繋がっている。職員の資格取得、シフト調整、研修費用などの要望について、管理者が調整している。	コロナ禍で職員が希望する研修や勉強会が実施できなかったもので、状況をみながら、様々な工夫のもと、実施できるよう検討することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、経営者にたいして機会あるごとに現場の状況について詳しく報告を行っている 職員が落ち着いて働けるよう環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた内容の研修にし、職員が参加出来るように心掛けている 又外部での研修ミーティング、勉強会等で報告する機会を作っている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議に出席し連携を図っている 研修会に出席し質の向上に励んでいる	グループホーム協議会のブロック会議に出席していたが、現在はオンライン会議で、介護保険改定や新型コロナウイルス感染症対策についての情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、事業所としては、どのような対応が出来るか事前に話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人状況を見極め可能な限り柔軟な対応行い又改善に向けた支援と信頼関係を築きながらサービスに繋げるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たずお互いが協働しながら和やかな生活出来るよう場面づくり 声かけをしている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなっている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室に行き続けている利用者があり 一人一人の生活習慣を尊重している	昔から通っていた馴染みの美容院に通っている利用者もいる。以前は、家族と墓参りに行ったり、外食を楽しんだりしていたが、コロナ禍で、面会も自粛している。関係が途切れないよう、年賀状や電話で家族と連絡を取り合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について情報共有できるようにしている 心身の状態や気分、感情で日々変化することもあるので注意深く見守るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にもお手紙や電話で状況伺ったり継続的な付き合いが出来るよう心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握を努めている。言葉や表情などからその真意を推測したり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得られるようにしている	日々、利用者の意向も変化するので、その日の言葉、表情などから、どんなことを要望しているのか、声掛けして確認している。思いや意向の把握が困難な人には、居室担当職員がじっくり話を聞いたり、家族から情報を得て支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、自宅に訪問したりご本人や家族関係者などから聴き取るようにしている。利用後も折に触れどんな生活をしていたのか聴いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている	アセスメントは、課題検討用紙を利用し、全職員で検討している。モニタリングは3ヶ月ごとに行い状態が変化した時は、都度話し合い、家族の意見も入れ、介護計画の見直しをしている。介護計画書の同意は、家族の来訪時や来訪できない家族には電話で連絡し、郵送して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能を生かして自宅で暮らす認知症対応のサービスを提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けていけるよう運営推進会議に警察、町内会長民生委員の方に出席して頂き交流連携を図っている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診となっている又通院は、ご本人やご家族の希望に応じて対応している 家族同行の受診となっているが不可能な時には職員が代行するようにしており利用契約の時にその旨を説明し同意得ている	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診している。訪問医がかかりつけ医の場合、月2回訪問診療を受けている。通院は、家族の付添いが基本であるが、困難な時は職員が同行している。家族付添いの受診時には、利用者の状態などのメモを渡し、口頭でも説明をしている。看護師が非常勤として週2回勤務し、健康管理を行っている。月1回、訪問歯科医が来訪し、治療や口腔ケアを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている 看護職員が居ない時間は、記録を基に連携を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、職員も見舞うようにしている又家族とも情報交換しながら回復状況等を伺い速やかな退院支援に結びつけている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りに関するホーム方針を説明し、双方で確認を得、医療機関や訪問診療の説明をしている 重度化や終末期に関して家族の意向に応じられるように対応している	ホームで看取りを希望したいという利用者・家族には、入居時に「看取りに関する指針」を説明し、同意を得ている。医師が終末期と判断した際には、管理者や看護職員が家族に説明し、介護計画を作成し同意を得て支援を行っている。管理者は、日頃から看取り対応の研修を行い、職員が不安にならないように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の容態の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備している又外部、内部の研修もしている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、利用者とともに避難訓練を行っている 地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼び掛けている	災害対策マニュアルを作成している。例年は年6回、避難訓練、夜間想定訓練を実施していた。昨年はコロナ禍ではあったが、消防署立ち合いも含めて3回実施している。設備点検は、年2回業者が行っている。備蓄は10日分用意し、新たにローリングストック法に基づきリストを作成して定期的に入替えて管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり、誘導の声がけをして、目立たずさりげない言葉がけや対応に配慮し、利用者の誇りやプライバシーをそこねない対応の徹底を図っている	利用者一人ひとりを尊重し、尊厳を損ねないよう努めプライバシー保護に配慮してケアに取り組んでいる。排泄介助時などは耳元で声掛けし、さりげなくトイレに誘導している。呼び名は基本「さん」付けで呼んでいるが、本人の希望で愛称で呼ぶ人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛け、意志表示が困難な方には表情を読み取ったり些細なことでも本人が決める場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れを持っているが、職員の側の都合を優先するのではなく、一人一人のペースを大切に出来るだけ個性のある支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援し、又化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる 本人の馴染の美容院で希望に合わせたカット、毛染めをしてもらえるように連携をとっている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、利用者と相談しながら決めている 毎月行事、誕生会は、利用者の希望を聞き手作りしている 片付けも利用者と一緒に食事を大切にしている	メニューには、利用者から好みの物を聞いたり、季節の食材を取り入れて職員が作成し調理している。食事を作る過程も大切に、音や香りを五感で楽しめるようにしている。市の栄養士から塩分量などの助言を受けている。季節の行事に合わせ、正月には、あんこ餅や雑煮を提供したり、クリスマスにはピザなど洋風のメニューを提供して利用者から好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報共有している 食事内容を写真に残し、家族に便りで報告している 残食、摂取量を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員一人ひとりが把握し毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助をおこなったりしている 就寝前は、義歯の洗浄を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することによって、トイレで排泄できるように支援している	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握している。できるだけトイレで排泄が行えるよう声がけし、誘導している。夜間は、おむつやパッドの大きさを変えたり、居室でポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりの状態に合わせて支援している。便秘対策としては、歩け歩け運動や軽体操を行い、食事には乳製品を摂り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質が多い食材や乳製品を採り入れている レクリエーションや軽体操の運動を働きかけることで自然排便が出来るよう取り組んでいる		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	大浴場は、月、水、金に実施し、個浴は、入浴の希望があれば午前9時から午後7時の間で入浴支援をしている 体調により足浴、マッサージもおこなっている	大浴場には、月、水、金に入浴し、個浴は利用者の希望があれば午前9時から午後7時までの間に入浴支援をしている。湯はかけ流しである。大浴場には、何人かで温泉気分を味わいながら、マイシャンプーなどを使用し、楽しく入浴している。入浴拒否のある場合には、声掛けや時間を変えて入浴ができるよう誘導している。入浴できない状況の時は、清拭等で清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている 又一人ひとり体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握出来るようにしている 服薬時は、飲み込むまで確認し、飲み忘れや誤薬防止の為に投薬チェック表を作成している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願い出来るような仕事を頼み感謝の言葉をつたえるようにしている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や希望に応じて外出し季節を肌で感じてもらい、心身の活性につなげるようにしている 又外食、お弁当を持って戸外に出かけている	コロナ禍ではあったが、馴染みの温泉施設と話し合い感染対策を徹底し、松島の日帰り温泉に行くことができた。利用者は食事や土産を買い、楽しんだ。他にも、感染予防を徹底し、農業園芸センターにお弁当を持って出掛けたり、春には定義に油揚げやおにぎりを食べに行ったり、加瀬沼に花見にドライブに出掛けるなど楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出にお見上げ等自分の財布から支払ってもらう 自分の財布からお金を出すことで社会性の維持に繋げている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状と暑中見舞いを出すための支援を行い、利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く暮らして頂けるよう清掃は、徹底している フロアの飾りつけなどは、利用者と一緒に考えて、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらうような工夫をしている	大きなテーブルやゆったりと寛げるソファが設けられ、日中はほとんどの利用者が日当たりが良く明るいフロアで過ごしている。手作りの日めくりカレンダーや見やすい時計、季節に合わせおひな様や今年の干支の折り紙が飾られ、温かい雰囲気を作り出している。温・湿度は職員が管理し、冬場は加湿器も使用している。換気は、1時間置きに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ホールや階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等を置き、絵画や花などで装飾し 居心地の良い空間を作っています		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使いなれた日用品等用意し 写真、テレビ、仏壇なども持ち込まれ安心して生活ができるように配慮している	居室の入口のドアには、それぞれに花の写真が貼られ、室内にはエアコン、洗面台、クローゼットが設置されている。利用者は馴染みの家具、写真、テレビ、仏壇など持ち込み、それぞれの思いを大切に自分の部屋になっている。掃除は、早番の職員が行い、衣替えなどは居室担当者の職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、手すり 浴室 トイレ 廊下などの居住環境が適しているか見直し 安全確保と自立への配慮をしている		